

札幌市アイヌ文化交流センターによる中学校体験プログラム事業の活用に関する実践的研究 第 3 学年公民的分野 単元名「人権と共生社会」

札幌市立定山溪中学校 佐久間勇史 教諭

【1】単元のねらい

個人を尊重し、共生社会を実現するために自分たちにできることについて具体的な事例や体験的な活動を取り入れながら考えさせ、社会の形成者として自ら進んで関わろうとする態度を育てる。

【2】単元構成（9時間）

時 間	学習内容	学習目標
1	基本的人権と個人の尊重	・基本的人権の考え方や個人の尊重の原理に関心をもち、意欲的に追究する。
2～4	アイヌ文化にふれる（本時）	・札幌市アイヌ文化交流センターでの体験を通して、アイヌ民族の人権を尊重し、アイヌ民族の歴史や文化、伝統及び現状に関する認識と関心を高める。
5	平等権－共生社会を目指して	・差別問題とその解決への取り組みについて、具体的な事例を通して、関心を高める。
6	自由権	・日本国憲法が定める自由権について、具体的な事例を通して理解する。 ・自由について多様な考え方や価値観があることについて多面的・多角的に考察する。
7	社会権	・日本国憲法が定める社会権について、具体的な事例を通して理解する。 ・統計資料などを基に、経済格差の拡大と生存権との関わりについて読み取る。
8	人権保障を確かなものに	・日本国憲法が定める参政権と請求権について、具体的な事例を通して理解する。
9	「公共の福祉」と国民の義務	・公共の福祉による人権の制限について、具体的な事例を通して考えるとともに、人権を守り育てる責任の重要性に気付く。

【3】本時の学習活動を通して育てたい力

アイヌ文化にふれ、アイヌ文化を認め、共存していく態度

【4】本時の実践内容 平成29年7月20日（木） 9:35～11:10（1時間35分）

中学校体験プログラム事業を活用し、アイヌの方々と直接交流をしながらアイヌ民族の伝統文化を体験する。

- ①講話・歌舞・楽器等の講演（20分）
- ②アイヌ古式舞踊の体験（10分）
- ③体験交流（切り絵）（40分）
- ④館内・館外の解説（35分）

【5】実践の様子



○生徒の感想、学んだこと等

- ・ウポポ（楽器）は女性の身体の形に似せていると聞いて驚いた。
- ・踊りは一つ一つに意味があり、アイヌの生活に根ざしていることを知った。
- ・体験した踊りは、腰を床とほぼ並行にして長い間踊り続けるものだった。
- ・切り絵で作った文様にはフクロウの目やその他にも色々な意味があることを知った。アイヌの方の教え方も丁寧で、意外と簡単にできた。個人的にも作ってみたいと思った。
- ・アイヌの人々は自然を生かしつつ、工夫して生活していたり、私たちに考えられないくらい大変な苦勞をしたりしてきたのだなと思った。
- ・小学校で行った時よりも驚きや新たな発見があり、アイヌの文化や歴史を知ることができてよかった。チセで初めて燻蒸を見ることができてよかった。
- ・アイヌ語が少しわかったので、もっとアイヌの文化について知りたいと思った。

【6】成果と課題

①成果

- ・生徒の感想文から、体験を通して人権を尊重する基礎的な態度が身に付いたと考えられる。
- ・アイヌ民族に興味をもち、学校図書館を利用して関連する本を読む生徒もいた。
- ・社会科公民的分野における「人権と共生社会」について、意欲的に授業に取り組んでいた。

②課題

- ・生徒たちは、小学校4年生（定山溪小学校）でも、札幌市アイヌ文化交流センターにおいて、体験を行っている。小学校との連携をさらに強め、小学校の体験を中学校につなげることで深い学びとしていく必要がある。

【7】課題探究的な学習を取り入れた授業の充実

体験的な学習を通してアイヌ民族の歴史や文化を学ぶことで、人権はどのように守られるべきなのか、また、自分にできることは何かを考えるという単元の見通しをもつことができる。

【8】その他

- ・本活動は、毎年2月に各校に案内される、「小中高生団体体験プログラム提供事業」を活用しての取組。
- ・本校の校区が体験場所に隣接していることから、毎年路線バスを活用して、1校時から3校時にかけて学習し、4校時開始前に学校に戻りまとめを行っている。